

研究対象 2

クロバネキノコバエ科の一種の生態の解明及び防除手法の開発

研究内容の背景・概要

<研究の必要性>

(1) 発生と被害状況

平成26年秋期以降、我が国の一部において、収穫期のねぎに対するクロバネキノコバエ科の一種の幼虫による食害が確認された。平成27年春期には春にんにんへの食害が確認され、被害株率8割のほ場もあった。

平成27年秋期以降も本虫によるねぎ及びにんにんへの食害が確認され、発生地域については前年と比較して拡大していることが判明した。

(2) 本虫に対する現在の対応状況

ねぎ及びにんにんについて、本虫に対する登録農薬はないため、近縁種の防除方法を参考として、生産者に対し耕種的防除法（高畝栽培、石灰の施用及び植物残渣の除去）を周知している。農薬については、平成28年度から農薬登録に向けた試験を実施予定である。

(3) 緊急的な研究の必要性

クロバネキノコバエ科は日本で17属67種が知られており、多くは腐食性であるが、一部の種は植食性である。国内既発生種の場合は15℃程度で活動が低下するが、本虫はそれ以下の低温でも活発に活動しており、既存の害虫種とは異なる新種である可能性が示唆されている。

本虫は秋期～春期にほ場で発生していることが確認されているが、夏期の生息場所や1年の世代数等の詳しい生態は不明である。また、本虫はネギ及びにんにんの地下部を加害するが、一般的な防除方法は地上部を対象としているため、本虫に対する効果的な防除方法について知見がない。

このため、本虫の防除に資する基礎データの収集を行うとともに、これに基づく防除方法の確立を図る。

<研究内容>

① 本虫の生態解明

ア 生活史（卵、幼虫、蛹及び成虫の発育速度や季節消長並びに年世代数）

イ 好適な生育環境（各ステージの好適寄主植物、生息場所等）

② 本虫の発生地域範囲の特定

③ 本虫に対する効果的な防除技術の開発及びこれを踏まえた防除マニュアルの作成を行う。

本研究対象では、上記①～③を併せて実施できる研究機関（研究グループ）を公募します。採択は1件を予定しています。

【研究実施期間及び研究費上限額】

上記研究については、本年度内に終了することを求めます。なお、研究費については、7百万円を上限とします。

担当

農林水産省 農林水産技術会議事務局
研究開発官（基礎・基盤、環境）室 釘宮
TEL：03-6744-2216（直通）